

湘南藤沢学会 研究助成金（2018年度 / A: 学会発表）成果報告書
慶應義塾大学政策・メディア研究科 後期博士課程 清水信宏

1. 参加した学会の概要

■学会名：20th International Conference of Ethiopian Studies (ICES20)

■学会日程：2018/9/30 – 2018/10/5

■開催地：Mekelle University, Ethiopia

2. 発表タイトルほか

■主発表

「Welcome to Mekelle: Trace of Urban Scape of Mekelle in Relation to the Masonry Technique and Urban Planning」(Shimizu, N., Aoshima, K., Alula T, Okazaki, R.)

■共同発表

「Comfortability of Tigray Traditional House」(Aoshima, K., Shimizu, N.)

「Some Topics Towards a Better Understanding of Tigray's Cross-in-square: A Wide Ranging Comparison among Christian Cross-in-square Churches」(Higuchi, R., Shimizu, N., Sugawara, H.)

「Assessment of Built Urban Heritage in Mekelle City, Ethiopia, for Sustainable Development」(Alula T., Shimizu, N.)

■また、自身の発表するパネルである「2014 Challenges of Modern Architecture and Urban Planning in Ethiopia」にてパネルオーガナイズを行なった。

3. 活動の目的・狙い

ICES は、エチオピアに関する研究を行なう研究者が分野を問わず集まって研究発表を行なう国際学会である。第20回目の本会議は、報告者の研究対象地であるエチオピアのメケレ大学で行なわれた。研究対象地での学会開催ということで、これまで当該地域で行なってきた建築史や都市形成史に関する研究成果を、都市風景という普段目に見える身近な切り口から論じることを試みる。都市風景を構成する諸要素を、都市形成と都市計画・石造建築技術と工具・建築材料の観点から説明することを通じて、その都市風景の豊かさを時の蓄積に引きつけて説明することを目指す。その他、これまでの研究活動を通じて実測調査をした26のサイトの建築の図面化を終えたので、その資料集をメケレ大の諸機関に寄贈するために持参した。

4. 活動の成果

パネルが行なわれる部屋の鍵が開始時間に閉まっていたり予定通りにパネルが始められない、パネルの進行中今度は部屋の鍵がかかってしまい部屋に閉じ込められるといった、ハプニング続きのパネルをオーガナイズすることになったが、なんとかパネルを終えることができた。報告者以外の発表者の質疑が盛り上がり、十分な時間を報告者自身のプレゼンテーションの質疑に充てることができなかつたことが悔やまれるが（報告者はパネルの最終プレゼンターであった）、発表後にいくらかの感想・意見を聞くこともできたので、そうした点については今後博士論文を取り纏めていく上での参考にしていきたい。パネラーとしての時間感覚に関しては、今回の件を反省し、次回以降うまくやるようにしたい。会議のプロシーディングについては、今後事務局の方でその有無や概要が決定される予定である。

また、メケレ大学の建築学科（School of Architecture and Urban Planning, Ethiopian Institute of Technology, Mekelle）と先史環境遺産保護研究所（Institute of Paleoenvironment and Heritage Conservation）を相手にそれぞれ行なわれたミーティングに参加し、今後日本チームがどうそれぞれの学科と関わっていくのかについて意見交換をした。持参した資料集も寄贈し、それぞれの学科の図書館に所蔵されることとなった。

以上、今回の滞在は、研究内容のみならず学会の進行や今後の対象地域との関わり方についても考えさせられることのある滞在となった。資金面での補助をいただいた慶應義塾大学湘南藤沢学会に記して感謝したい。